

プレスリリース

平成 27 年 4 月 20 日
公益社団法人国土緑化推進機構

第 25 回「みどりの文化賞」受賞者の決定について

公益社団法人国土緑化推進機構は、第 25 回「みどりの文化賞」受賞者を下記のとおり決定いたしました。

「みどりの文化賞」の表彰は、来る 5 月 9 日（土）、日比谷公会堂で開催する第 25 回森と花の祭典「みどりの感謝祭」の式典において行います。

「みどりの文化賞」受賞者には、

- ア みどりの感謝祭名誉総裁秋篠宮殿下の表彰状
- イ 公益社団法人国土緑化推進機構会長の賞牌・副賞が授与されます。

受 賞 者

はたけやま

島 山

しげあつ

重 篤 氏

問合わせ先： 公益社団法人国土緑化推進機構
担当： 岩 佐 電話 3 2 6 2 - 8 4 5 1

第 25 回 みどりの文化賞受賞理由等



「森は海の恋人」運動の実践を通じ
豊かな日本の未来を目指して

受賞者

畠山 重篤 氏 (71 歳)

1. 畠山重篤氏は、家業の牡蠣養殖業に従事する中で、海の環境を守るには、その上流山間部の森を守ることが必要との考えから、平成元年に漁師仲間とともに「牡蠣の森を慕う会」を結成（平成 21 年に NPO 法人「森は海の恋人」に改変）した。気仙沼湾に注ぐ大川上流の室根山で、漁民による広葉樹の植林活動を開始し、これまで 20 年以上にわたってこの活動を継続している。その活動は歌人熊谷龍子の短歌の一節から「森は海の恋人」運動と名付けられ、小中高等学校の教科書にも取り上げられるなど全国に広がっている。
2. 植林と同じくらい大事にしているのが、「人々の心に木を植える」ための活動で、平成 2 年から人と自然のつながりを体験する環境教育を実践し、多くの子供たちに自然を感じ、自然を知る機会を提供している。これまでにこの体験学習に参加した子どもたちは 1 万人を超え、次代を担う世代に対する教育にも尽力している。
3. 森と海の関係についての科学的な解明にも力を注ぎ、森の腐葉土は鉄イオンと結び付いて「フルボ酸鉄」という植物性プランクトンに吸収されやすい鉄が作られ、これが川の水によって海に運ばれ、漁獲量の増加につながるということの実証に努めるとともに、現在は、「森は海の恋人」をきっかけに平成 16 年に設立された京都大学フィールド科学教育研究センターの社会連携教授を務め、自然生態系の連環について探究を継続し、この学問の普及に努めている。

4. 氏の養殖場は、東日本大震災で壊滅的な被害を受けたが、山から切り出したスギなどを使ってすぐに牡蠣養殖を再開するなど、被災地の産業の復旧・復興に活路を見だし、被災した人々の心の支えとなっている。
5. 以上のように、常に人と自然生態系の連環について考え、豊かな海を守るために森を大切にするという畠山重篤氏の活動は、極めて高く評価される。

【畠山重篤氏の経歴等】

(経歴等)

昭和 18 年生まれ。

昭和 36 年 3 月 宮城県気仙沼水産高等学校卒業

昭和 36 年 3 月 家業の牡蠣養殖業を継ぐ

平成元年 9 月 「牡蠣の森を慕う会」結成

平成 16 年 4 月 京都大学フィールド科学教育研究センター社会連携教授

平成 21 年 5 月 NPO 法人「森は海の恋人」を設立し、理事長に就任

(主な受賞歴等)

平成 6 年 4 月 朝日森林文化賞

平成 13 年 11 月 「漁師さんの森づくり」で第 48 回産経児童出版文化賞 JR 賞
第 50 回小学館児童出版文化賞

平成 15 年 4 月 緑化推進功労者内閣総理大臣表彰

平成 16 年 10 月 宮沢賢治イーハトーブ賞

平成 24 年 2 月 国連「フォレスト・ヒーローズ」
第 46 回吉川英治文化賞
第 59 回産経児童出版文化賞産経新聞社賞

平成 27 年 2 月 第 6 回 KYOTO 地球環境の殿堂入り

(主な著書・共著)

平成 6 年 10 月 「森は海の恋人」(文春文庫)

平成 11 年 9 月 「リアスの海辺から」(文春文庫)

平成 12 年 11 月 「漁師さんの森づくり」(講談社)

平成 17 年 6 月 「カキじいさんとしげぼう」(講談社)

平成 23 年 1 月 「森・川・海つながるいのち」(童心社)

平成 23 年 6 月 「鉄は魔法使いー命と地球をはぐくむ「鉄」物語」(小学館)

平成 27 年 6 月 「牡蠣とトランク」(ワック出版) 予定

みどりの文化賞について

1 趣旨

緑豊かな国土と新しい森林文化の創造に資する観点から、平成2年、国土緑化推進機構は「みどりの文化賞」を創設し、緑や森に関して顕著な功績のあった者（個人または団体）を対象として顕彰している。

2 選考方法

広く学識経験者等から候補者の推薦を受け、それに基づいて有識者で構成する「みどりの文化賞選考委員会」において受賞者を決定する。

3 表彰

「みどりの月間」中に開催される「みどりの感謝祭」の式典において表彰し、みどりの文化賞受賞者には、

- ① みどりの感謝祭名誉総裁（秋篠宮殿下）の表彰状
- ② 国土緑化推進機構会長の賞牌・副賞を授与する。

みどりの文化賞選考委員（五十音順）

| | |
|-------|--------------------------|
| 青山佳世 | フリーアナウンサー |
| 倉本聰 | 自然・文化創造会議議長 作家 |
| 佐々木恵彦 | 日本学士院会員（公財）国際緑化推進センター理事長 |
| 澁澤寿一 | 特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク理事長 |
| 田部井淳子 | 登山家 |
| 滑志田隆 | ジャーナリスト（元毎日新聞編集委員） |
| 古川清 | 元東宮大夫 |
| 宮林茂幸 | 東京農業大学地域環境科学部 教授 |

（敬称略）

「みどりの文化賞」のこれまでの受賞者

- 第1回 戦後の森林造成と国土緑化
(受賞者) 徳川宗敬 氏 (故人)
- 第2回 木の文化の継承、発展に貢献した者
(受賞者) 西岡 常一 氏
- 第3回 森林と水との関わりを社会にひろめる
(受賞者) 財団法人 水利科学研究所
- 第4回 森林と水の守り手, 山村を支える (個人)
(受賞者) 黒澤 丈夫 氏 (群馬県上野村村長)
- 第5回 森林と水の守り手, 山村を支える (団体)
(受賞者) 宮崎県諸塚村
- 第6回 ボランティア活動による森林づくり
(受賞者) 草刈り十字軍
- 第7回 持続的森林経営をめざす森林づくり
(受賞者) 高橋 延清 氏
- 第8回 大都会のなかでの自然豊かな森林づくり
(受賞者) 明治神宮の森
- 第9回 海を蘇らせた森林づくり
(受賞者) えりも岬の緑を守る会
- 第10回 「森林文化」の新たな展開
(受賞者) 筒井 迪夫 氏
- 第11回 民間公益団体による緑化活動支援
(受賞者) ゴルファーの緑化促進協力会 (GGG)
- 第12回 上下流の協力による森林づくり
(受賞者) (財) 矢作川水源基金
- 第13回 国際緑化活動の推進
(受賞者) 神足 勝浩 氏
- 第14回 地方自治による山村活性化への取り組み
(受賞者) 松形 祐堯 氏
- 第15回 国民参加の森林づくり運動の推進
(受賞者) 高木 文雄 氏
- 第16回 民間団体等による「国民参加の森林づくり」運動支援
(受賞者) 株式会社 ローソン (ローソン緑の募金)
- 第17回 森林を活かし、木の文化の伝承に貢献した者
(受賞者) 小原 二郎 氏

- 第18回 森林文化を未来に引き継ぐ森林管理
(受賞者) 神宮司庁営林部 (伊勢神宮宮域林)
- 第19回 民間団体による国際緑化活動の推進
(受賞者) (財) オイスカ
- 第20回 森林と人との豊かな関わりを目指して
(受賞者) 北村 昌美 氏
- 第21回 伝統の技が生み出す木の文化
(受賞者) 田中 文男 氏
- 第22回 「水と緑と土」は、豊かな自然の原点
(受賞者) 富山 和子 氏
さくらは日本のシンボル～大震災からの復興の励みに～
(受賞者) 佐野 藤右衛門 氏
- 第23回 日本の山から明るく豊かな展望の到来を願って
(受賞者) 島崎 洋路 氏
- 第24回 「森林の力を地域の力に」^{もり}の実現を目指して
(受賞者) 中越 武義 氏